

「わが国の災害医療の現状と課題

—新たな防ぎえる災害死への取り組み—

- ◆ 講師：大友 康裕 教授（東京医科歯科大学大学院 救急災害医学分野）
- ◆ 日時：平成 27 年 9 月 30 日（水）17：30～
- ◆ 場所：医学教育図書棟 3 階 第 2 講義室



- ◆ Lecturer: Prof. Yasuhiro Otomo
(Dept. of Acute Critical Care & Disaster Medicine,
Graduate School of Medical & Dental Sciences,
Tokyo Medical & Dental University)
- ◆ Date: September 30th (WED) from 17:30.
- ◆ Place: Lecture room 2, Medical Education & Library Building 3F.

わが国の災害医療体制は、阪神・淡路大震災で多くの「防ぎ得る災害死」を経験し、その教訓を基に、平成 8 年 5 月の厚生省健康政策局長通知によって、災害拠点病院の整備、広域災害・救急医療情報システム（Emergency Medical Information System：E M I S）の整備が進められ、さらに平成 16 年から、災害派遣医療チーム（D M A T）の整備が行われてきた。

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災においては、多くの医療関係者が被災者の医療等に尽力した。災害発生直後から E M I S が活用され、D M A T が全都道府県から被災 4 県へ派遣され、383 チーム、1,852 名の隊員が 12 日間に渡って活動した。また被災地の診療拠点として、多くの災害拠点病院が診療機能を維持し、患者を受け入れた。

その一方で、避難所または自宅に避難した方々のうち、過酷な環境から健康状態が急激に悪化し、命を落とす「災害関連死」が多発した。

災害時の「防ぎ得る死」を如何に最小限にするか、今後の課題について述べたい。

**大学院セミナーですが、医学部附属病院の医療スタッフや事務職員、
医学部の学生さんの参加も歓迎します。**

担当：救急・総合診療部 笠岡俊志